

はやぶさ2 着地

衝突装置 分離カメラ

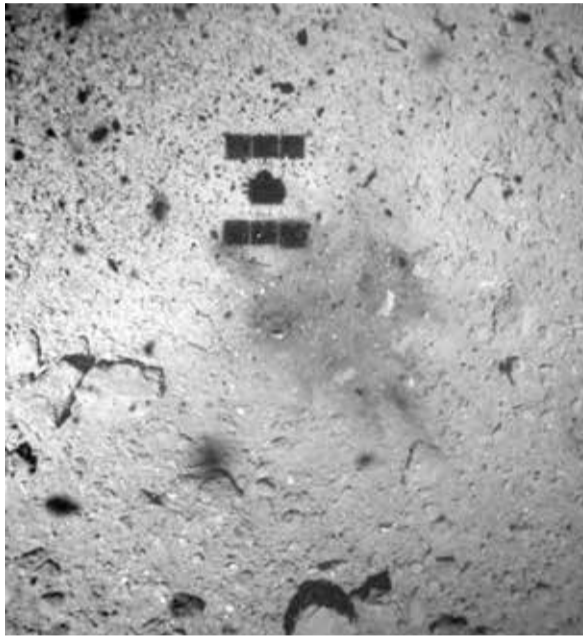
射出・採取と観測

レーザー高度計 中間赤外カメラ 近赤外分光計

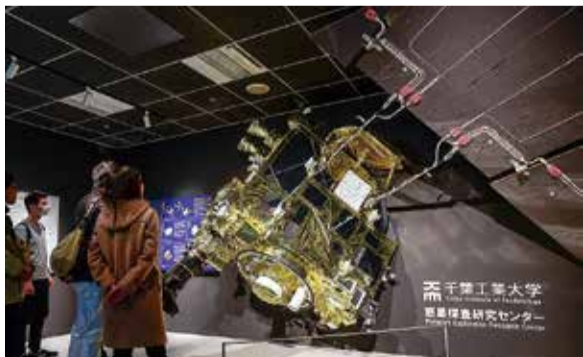
距離や表面分析

光学航法カメラ

その瞬間を撮影



④「はやぶさ2」が着地し、上昇を始めた直後に光学航法カメラが撮影した「リュウグウ」の地表。機体の影が映っている(2月22日午前7時29分。© JAXA/東京大/高知大/立教大/名古屋大/千葉工大/明治大/会津大/産総研) ⑤ 着地成功に沸くプロジェクトチーム。右端の赤ジャンパーが千秋上席研究員、その前が山田研究員(2月22日午前8時過ぎ、JAXA宇宙科学研究所管制センターで= ISAS/JAXA提供)



東京スカイツリータウンキャンペーンのArea IIに2月7日から「はやぶさ2」の実物大模型が展示されたII写真。宇宙でのミッションを身近に感じてほしいため、関連情報も展示され、人気を集めている。

「生命誕生の謎に迫る!」と日本中を熱狂させ、世界から称賛の音が寄せられた探査機「はやぶさ2」の小惑星「リュウグウ」への着地には、本学惑星探査研究センター(PE RC)が開発に関わった観測機器が活躍し、科学的検討の成果が得られた。

随所に「CIT」技術

PERCCが活躍

着地成功は2月22日午前7時29分。着地の瞬間、「はやぶさ2」は機体下部にある試料採取のための「サンプルホーン」から地表に弾丸を打ち込み、次の瞬間には上昇開始。高度30m以下で撮影した写真がこの日午後にはテレビや新聞で大きく報道された。この写真を撮った光学

航法カメラ(ONC)の開発と研究に携わっているのが山田研究員だ。この撮像は着地点を正確に推定するために必須の作業。山田研究員らは、この光学航法カメラを駆使して2018年2月26〜27日に、初めて「はやぶさ2」から宇宙空間に浮かぶ「リュウグウ」の実像をとらえるのに成功。また15年12月3日に行

った「はやぶさ2」の地球スイングバイの際には、約660万km離れた地球を撮影。さらに航行途中にも日々近づいて、次第に大きく鮮明に見える「リュウグウ」の姿が、火星や恒星を撮影して地球に送るなど、数々の成果を挙げている。「はやぶさ2」は着地の8カ月前の18年6月27日、「リュウグウ」から20kmの目標地点に到着

このときから本格出演を迎えたのが、千秋博紀上席研究員が開発と科学応用研究に携わっているレーザー高度計(LIDAR)

R)と中間赤外カメラ(TIR)、近赤外分光計(NIRS3)だ。LIDARは「リュウグウ」の表面にレーザを照射し、その反射光が返ってくるまでの時間を計測して、「はやぶさ2」と「リュウグウ」の間の距離(高度)を測ると同時に、地形を正確に把握する。

TIRはサーモグラフィを使って「リュウグウ」表面の温度分布を測り、地表の凹凸や表面物質の状態などを知る装置。NIRS3は、水を含む物質で覆われていることがわかっていて、

「はやぶさ2」の使命は、太陽系の誕生や生命の起源の謎に迫る手掛かりとなる「リュウグウ」の鉱物を持ち帰ること。そこで最大の「見せ場」ともいえるのが、衝突装置(SCI)を使って「リュウグウ」の地表に人工的にクレータを作り、内部物質を露出させて、そこからサンプルを採取する実験だ。このSCIの開発と科学検討に和泉浩二主席研究員が携わっている。

SCIは「はやぶさ2」から放出されて「リュウグウ」の上空に浮かび、時限装置によって火薬を爆発させて、重さ2kgの銅の弾丸を地表に衝突させる。衝突の瞬間に飛び散る弾丸の破片などから身を守るため、「はやぶさ2」はSCIを放出したらすぐさま「リュウグウ」の背後に回避するから、衝突の瞬間を観測できない。

「はやぶさ2」の使命は、太陽系の誕生や生命の起源の謎に迫る手掛かりとなる「リュウグウ」の鉱物を持ち帰ること。そこで最大の「見せ場」ともいえるのが、衝突装置(SCI)を使って「リュウグウ」の地表に人工的にクレータを作り、内部物質を露出させて、そこからサンプルを採取する実験だ。このSCIの開発と科学検討に和泉浩二主席研究員が携わっている。

SCIは「はやぶさ2」から放出されて「リュウグウ」の上空に浮かび、時限装置によって火薬を爆発させて、重さ2kgの銅の弾丸を地表に衝突させる。衝突の瞬間に飛び散る弾丸の破片などから身を守るため、「はやぶさ2」はSCIを放出したらすぐさま「リュウグウ」の背後に回避するから、衝突の瞬間を観測できない。

「はやぶさ2」の使命は、太陽系の誕生や生命の起源の謎に迫る手掛かりとなる「リュウグウ」の鉱物を持ち帰ること。そこで最大の「見せ場」ともいえるのが、衝突装置(SCI)を使って「リュウグウ」の地表に人工的にクレータを作り、内部物質を露出させて、そこからサンプルを採取する実験だ。このSCIの開発と科学検討に和泉浩二主席研究員が携わっている。

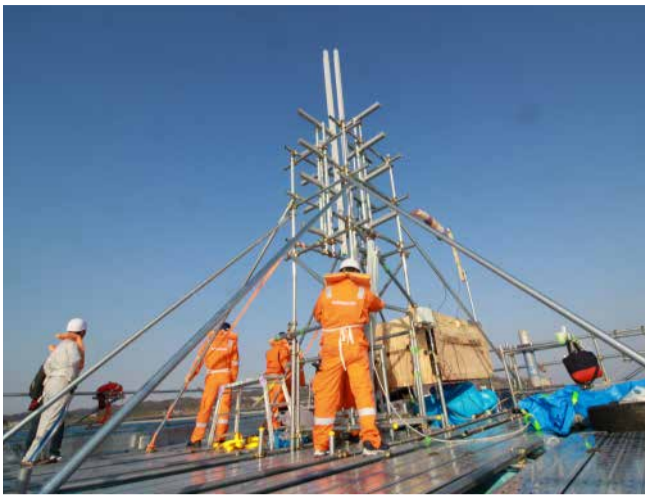
SCIは「はやぶさ2」から放出されて「リュウグウ」の上空に浮かび、時限装置によって火薬を爆発させて、重さ2kgの銅の弾丸を地表に衝突させる。衝突の瞬間に飛び散る弾丸の破片などから身を守るため、「はやぶさ2」はSCIを放出したらすぐさま「リュウグウ」の背後に回避するから、衝突の瞬間を観測できない。

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<https://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 和田研ロケット洋上発射に成功/就職戦線 本学に企業が熱視線/本学志願者9万人台に/Global Cafe CIT 開く
- 3面 味元さん畠山さん食卓照明で新人賞/山崎研4人が優秀論文発表賞/手嶋教授の英語発表支援に関東工教賞/金田准教授に大体連の賞
- 4面 R&D PM研究会シンポ/祝勝・奨励会
- 5面 大井で初どんど焼き/南房総市「活力創造」プロジェクト報告会/校友「佐藤琢磨さん」/新任紹介
- 6面 定年退職者

洋上の発射台にロケットを据え付ける



ロケット 洋上発射に成功

和田研 大学で世界初



飛翔するハイブリッドロケット

機械電子創成工学科・和田豊准教授の研究室が製作したハイブリッドロケットが3月2日、千葉県網代湾沖での洋上発射実験に成功した。大学ロケットの洋上発射実験は世界初の試み。

打ち上げ機会広げる

企業と共同研究 岩和田漁協協力

「釣りのキンメ祭り」でにぎわう御宿町の海岸の沖合約500mに浮かべた、アルミ板やパイプなどで組み立てた10×8mのフロート(台船)の上の発射台から、ABS樹脂を燃料とする全長1・7mの小型ロケットを打ち上げた。

フロートの組み立てや発射地点までの漁船による曳航などに岩和田漁協の全面協力を得た。このロケットは、同学

科が今年度後期に新開設した「機械創成発展実験実習」の講義の一環として、和田研の3年生が製作。ロケットはオレンジ色の炎を吹き出しながら高度2000m付近に達し打ち上げら



発射台を見守る和田研の学生たち

和田研では、同実験実習でのロケット製作を、将来のロボットライアスロン競技に使うことを目標に行っている。この競技は、ロケットで高度2000、2500mに打ち上げら

れた海洋ロボットがパラシュートで降下して、海を泳ぎ、砂浜を駆けあがって速さを競うというもの。また、今回の洋上発射実験は、和田准教授が非常勤上席研究員を務める惑星探査研究センター(PERC)と、スタートアップ企業のアストロロイション(株)が締結した共同研究契約に基づいて行われた。

アストロロイション社は、中古の石油掘削設備をロケットの洋上発射台として再利用するビジネスモデルを描いている。両者は当面、PERCが2020年までの打ち上げを計画している高度3000m級のハイブリッドロケットのための洋上発射台の開発に向け共同研究を行う。

宇宙ビジネスが活気づく中で、日本でロケットが発射できる場所はJAXAの種子島宇宙センターと内之浦宇宙空間観測所のほかには、本学の御宿町岩和田の射場を含め

て5カ所しかない。洋上発射の実用化は、日本のロケット発射場不足の解消につながるが期待されている。和田准教授の話 高度1000mへ小型観測ロケットを打ち上げて、宇宙塵の回収を目指すPERCの計画には、高頻度かつ自由な打ち上げ実験が不可欠。洋上打ち上げは、この課題解決に大いに役立つと考えています。今回の網代湾での実験成果の分析から新たな指針を得たいと思っています。

思い、伝わった?

Global Cafe CIT 開く

本学の留学生と日本人学生が交流を図る「Global Cafe CIT」が2月14日、津田沼キャンパス4号館1階に常設されたグローバルカフェで開かれ、約40人が参加したII写真下。学生課と国



学生課と国際交流課は、ほかにも留学生の歓迎イベントや同窓会、クリスマス会を企画してきた。今後もイベントを継続し、交流の一助にしたいとしている。

「交じりで留学生に思いを伝えた。バレンタインデーと重なったこともあり、チョコレートやデコペンでメッセージや絵を描いたクッキーを交換し合うなど終始笑顔の絶えない交流会となった。最後に、フランス・コンピエーニュ工科大(UTC)からの交換留学生ニコラスさんがフランスやUTCを紹介し、日本人学生たちも留学へ興味が高まった様子だった。

本学へ熱視線 1万5千余社

就活戦線 来月も企業説明会予定

3月1日、名実ともに本格スタートした就職活動戦線で、企業側の千葉工大生への期待がこれまで以上に高まって、視線が熱さを増している。2018年度に入って

「最近の千葉工大卒業生のレベルアップには目を覚ますものがある」と、驚嘆の声が寄せられている。こうした企業側の評価と期待の高まりを受けて、就職率を100%に近づける、学生と保護者の満足度アップにつながるよう、就職・進路支援部はさまざまな就活支援策を実施している。

2月23日と25、26、27日の4日間、津田沼校舎で開いた「企業&仕事研究セミナー」は昨年までのOB・OG懇談会を引き継ぐ企画。千葉工大への採用意欲が高い優良企業483社が参加し、就活に意欲的な大勢の学生が訪れた。

平成31年度のB日程試験が2月17、18日の2日間、また大学入試センター利用入試試験(中期II)が3月5日午前にC日程入試

総志願者 9万人台に 31年度入試

平成31年度のB日程試験が2月17、18日の2日間、また大学入試センター利用入試試験(中期II)が3月5日午前にC日程入試

1万8083人(昨年度より2210人増)。大入試センター利用入試(中期)には4001人(昨年度より814人増)、C日程入試には5

願者数は9万2528人(昨年度より1万2079人増)という結果になり、総志願者数は最多を更新、一般入試志願者ラ

ツアー・ビジネス)企業を紹介する企画で、理系大学単独開催としては初の試み。

また2月には、首都圏を中心とする33大学による、理系学生への技術展示会「テクサス」も津田

江藤部長の話 本学としては、学生の研究室での活動時間や、学修時間の確保等のためにも、企業に対してルール厳守を訴え続けてきている。就職希望の学生諸君には、仲間うちなど周囲の情報に流されることなく、自分

が目標にしている企業の動きは自分で確認し行動に移す必要がある。焦りは禁物。その上で分からないことがあれば、1人で悩まず就職課に相談にきてください。

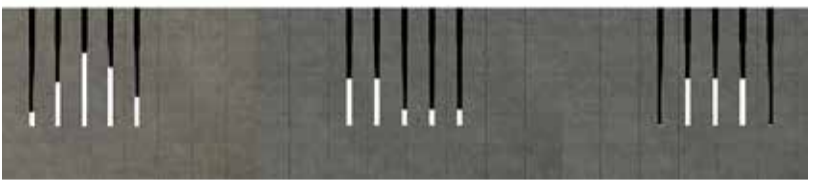
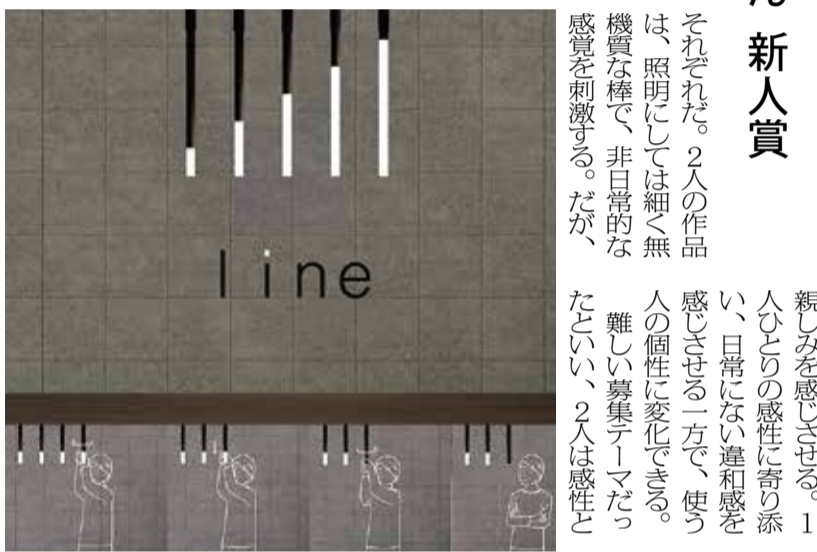
個性ある違和感 食卓照明

味元さん 畠山さん 新人賞

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。



畠山さん(左)と味元さん。下は作品の説明図から



「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

山崎研4人 優秀論文発表賞

電気学会 年間1研究室で異例

電気学会が35歳以下の若手研究者・技術者を対象に選ぶ2018年優秀論文発表賞に、山崎克巳研究室から4人が選ばれた。

受賞したのは近藤涼太さん（電気電子情報工学専攻修士2年）、芝本勇希さん（同）、高木悠太郎さん（同1年）、成島広樹さん（発表当時修士2年、現・日立オートモティブシステムズ勤務）。同じ研究室の学生が年間の賞で4人も選ばれるのは異例。

「焼結ネオジム磁石の形状と配向の最適化による集中巻IPMモータの特性改善に関する検討」

「集中巻IPMモータにおける永久磁石形状・配向最適化に関する検討」

「ハイブリッド車用ロータリー内部に永久磁石を埋め込んだ埋込磁石同期電動機は、電気自動車やエアコンで高効率化が期待されているが、高速回転での鉄損の計算が十分とはいえなかった。そこでマイナー・ヒステリシスループ（材料固有の磁束曲線の種類）を考慮した解析を行い、従来よりも高精度な電磁界解析を行った。」

「賞を頂き大変光栄です。現在は院生で就活中ですが、これも生かして頑張ろうと思います」

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。

「感性を刺激するプロダクトアイデア」を求めたサンワカンパニーデザインアワード2018（1月25日、東京・南青山のサンワカンパニー東京ショールームで表彰式）で、デザイン科学科3年、畠山千東路さん、味元侖瑛さん（ともに倉斗綾子研究室）のコンビが提案した食卓照明「line」が新人賞として表彰された。



(後列左から)高木さん、近藤さん、(前列)芝本さん、円内は成島さん

意匠コン応募や英語発表を支援

手嶋教授に関東工教賞

機械電子創成工学科の手嶋吉法教授が研究室（機械サイエンス学科）で行っている「パテント&デザイン」プロジェクトへの応募と国際会議での英語発表を研究室の全学生に経験させる取り組みに対し、関東工学教育協会（略称・関東工教）龍野康次郎会長は関東工学教育協会賞（奨励賞）を贈ることを決めた。昨年12月に決定、



授賞式は5月の予定。手嶋研は4年生全員が毎年、文部科学省や特許庁が主催するパテントコンテストかデザインパテントコンテストに応募。4年生はその内容を、院生は各自の研究内容を筑波大主催の研究集会で、全員が英語で発表している。

「賞を頂き大変光栄です。現在は院生で就活中ですが、これも生かして頑張ろうと思います」

体育教育・研究に活躍

金田准教授に大体連の賞

大学教育での体育を研究調査している全国大学体育連合（大体連）は3月1日、本学の金田晃一先生に、10回大学体育指導者養成進工学部教育センター研修会（日本大理工学部



金田准教授

「賞を頂き大変光栄です。現在は院生で就活中ですが、これも生かして頑張ろうと思います」

「賞を頂き大変光栄です。現在は院生で就活中ですが、これも生かして頑張ろうと思います」

次世代の車社会をつなぐ

R&D P M研究会シンポジウム

プロジェクトマネジメント学科の久保裕史、下田篤教授、田隈広紀准教授らが中心となって活動している「R&D P M研究会」主催の第6回シンポジウムが2月8日、東京スカイツリータウンキャンパスで開催され、産業界や大学、研究者団体、官公庁などから大勢の聴講者が参加した。写真

年一回開催の今回のテーマは「モビリティ産業とR&D P M」。市場規模が年間1億台、400兆円を超える自動車関連産業は今、大変革期に突入中。IoTやビッグデータ、人工知能は、自動運転、電動車、カーシェアリングなどの次世代自動車革命を可能にし、「Maas (マース) 社会の実現」



Maasとはバス、タクシー、電車、カーシェアリング、自転車など、目的地までの間で使えるあらゆる交通機関を瞬時にひとつづつに結びつける低価格で利便性の高いキヤッシュレスサービス。Maas社会では、必要な自動車数が半減する一方、電気・電子部品や材料・素材、ソフトウェア、通信技術やインフラなどの膨大な需要が生じる。そこでは自社の技術や製

品と結びつけて素早く製品化する「オープンイノベーション」が欠かせない。しかし、このように複雑な複合サービスを、複数の企業が多数同時に参加して、限られた期間内に研究開発するマネジメント技術は、未だ発展途上にある。今回のシンポジウムは、このような問題意識の下に企画された。

テーマが広範囲に及ぶだけに、講師と発表者の顔ぶれも多彩。一橋大の鷲田祐一教授(元博報堂)は、自動運転によって予想とは全く異なる社会ニーズが広がる可能性を、「未来洞察法」によって浮かび上がらせた。

アイシン・コムクルーズ(株)の加藤喜昭社長(元トヨタ)は、次世代自動車に潜む思わぬ死角を指摘した。また本学未来ロボット技術研究センター(fuRo)と共同開発した「ロボット型ビークル」や「電動くるま椅子型モビリティ」など、ワクワク感たっぷりのクルマの形を披露した。

AZAPPAの坂本優執行役員(三井物産から出身)は、Maasが効率のよい移動手段としてのみならず、新たなサービスの破壊的イノベーションになりうることを示した。

R&D P M研究会の

日ごろの成果発表では、(株)テカナリエの関口幸治顧問(元ルネサス)が、次世代自動車用半導体企業が描くビジネスエコシステム(生態系)戦略を発表。

(株)富士通オリティ&ウィズダムの大島史事業部長(元富士通)は「プロジェクトマネジメントへの人工知能活用」という先端研究の成果を報告した。

久保教授は、「モビリティ産業の革新は、センサー5・0の最重要課題のひとつ。その実現には幅広い英知の結集が必要となる。千葉工大が中心となって産官学のさまざまな研究者や技術者を巻き込み、このチャレンジングなテーマで成果をあげ、社会貢献を果たしていきます」と抱負を語った。

表彰は15クラブ 祝勝・奨励会



栄誉をたたえ合う参加者

小宮学長と歓談

平成30年度に各種競技会や学内外の行事で活躍した体育会、文化会のサークルを表彰する第39回祝勝・奨励会が2月8日、津田沼校舎2号館3階大教室で開催された。

今回表彰されたのは体育会8、文化会7の計15クラブ(下表参照)。

学生委員会委員長の鈴木進教授(教育センター)はあいさつで「本日集まったサークルは、この1年間、素晴らしい成績を残しました。非常に誇らしいことです」と栄誉をたたえた。また、小宮一仁学長は「学生諸君の自信に満ちあふれた笑顔がまぶしいくらいです。今後の活躍にも期待しています」と述べた。

表彰式後、参加学生たちは仲間の健闘を称え、お祝いにかけた教職員らとともに、にぎやかな懇談が繰り広げられた。

表彰されたクラブは以下のとおり。
平成31年2月7日(木)17時～ 津田沼校舎2号館3階大教室で

第39回祝勝・奨励会

所属	クラブ名	主将・部長等	部員数	祝勝奨励事由	日付
体	空手道部	PM2年 三浦 彩	11名	東都六工大空手道選手権大会 団体形 優勝 団体組手 優勝 女子個人組手 優勝 (PM2年 三浦 彩)	6/24
				全日本大学空手道選手権大会 男子団体組手 出場	11/18
				全日本理工科系大学空手道選手権大会 男子個人形 優勝 (PM1年 清水 拓馬) 女子個人組手 優勝 (デ科2年 清水 富永)	11/25
	弓道部	機電2年 両澤 祐亮	57名	千葉県学生弓道選手権大会新人戦 Aチーム 優勝	11/3
	自動車部	機械3年 大井 健司	33名	全日本学生ジムカーナ選手権大会 全日本学生ダートトライアル選手権大会 男子団体戦 出場 男子団体戦 出場	8/19 8/5
	射撃部	機械3年 伴田 大弥	24名	東日本学生スポーツ射撃選手権大会 総合団体 優勝	5/10~13
会	柔道部	未口2年 田中 宏征	19名	東京理科大学柔道優勝大会 団体戦 優勝	9/30
	バドミントン部	PM3年 蘭田 諒人	48名	春季千葉県学生バドミントン選手権及びリーグ戦 男子団体 千葉県学生バドミントン大会 ダブルス戦 優勝 (PM3年 横山 麗奈・材料1年 坂本みなみ)	Bリーグ優勝・Aリーグ昇格 6/24~7/8 11/11~12/5
				かみず舞っちゃげ祭り 大学生大会 全国大会 (北海道札幌市開催)	大賞 9/16 6/8、9
				キャンパスオフロードミーティング初戦	スプリントエキスパートクラス 優勝(材料3年 小林 大介)
キャンパスオフロードミーティング第2戦				スプリントエキスパートクラス 優勝(材料3年 小林 大介) スプリント初級クラス 優勝(材料1年 小林 映介)	8/4、5
二輪部	材料3年 小林 大介	47名	キャンパスオフロードミーティング第3戦	スプリントエキスパートクラス 優勝(材料3年 小林 大介)	9/23
			キャンパスオフロードミーティング全国大会	個人総合ポイント 優勝(機サ4年 楠 雄貴) スプリントエキスパートクラス 優勝(材料3年 小林 大介)	11/11
文	総合工学研究会	機械2年 小瀧 直輝	26名	KONDOBATTLE ニンコン人型ロボット競技大会 ROBOT JAPAN 16th 学生選抜クラス 優勝 (未口3年 皆川 泰輝) 総合優勝(未口3年 皆川 泰輝) 優勝 (未口3年 皆川 真一)	2/10 6/17 7/22
	フィッシャークラブ	未口2年 大野航太郎	65名	全日本学生釣魚連盟関東支部ルー・フライ大会 優勝 (機械3年 大岡 翔大)	11/11
	写真部	都市2年 川原 響	61名	フォトクラブと協力して、学内サークル個々の活動風景等を撮影し、フォトブックにまとめ提供し大変好評を博している。地域施設を利用した展覧会、春期学外展「はるてん」、夏期学外展「ナツテン」を意欲的に行い、文化会活動の活性化に尽力したことが評価に値する。	
	書道倶楽部	機電2年 石井 壮汰	42名	各種団体から要請を受け、催しにおける大形式次第の作成や出張書道教室を行う等、地域への貢献度が高い。また、毎年開催される全国学生書写書道展において受賞する等、文化会所属サークルの模範であり、評価に値する。	
	TRPG研究会	通信2年 和田守 佑	92名	近隣小学校から要請を受け、両親が共働き等の児童を対象とした放課後子供教室に出向き、カードゲーム、ボードゲーム等と一緒に遊び、面倒を見ることで児童をはじめ多くの方々に大変喜んで頂いていることから、地域への貢献が高く、評価に値する。	
	フォトクラブ	機械2年 清水 優佑	82名	写真部と協力して、学内サークル個々の活動風景等を撮影し、フォトブックにまとめ提供し大変好評を博している。また、文化の祭典や津田沼祭における写真展を楽しみに多くの方々が来校されていることから、大学や地域への貢献が高く、評価に値する。	
放送研究部	情報2年 杉原 怜奈	47名	習志野警察署から要請を受け「電話de詐欺」防犯対策に係る動画撮影を行い、その動画がYouTube千葉県警察公式チャンネルに動画投稿された。また、動画撮影に尽力したことに伴い、習志野警察署長から感謝状贈呈を受けるなど、文化会所属サークルの模範であり、評価に値する。		

千葉工大生による取り組み概要の説明



少子高齢化・過疎化が進む南房総市を活性化... 2月28日、各プロジェクトを発表する

平成30年度産学協働地域活力創造事業報告会が市内「こみうら元気倶楽部」(富浦町原)で開催された。

美智男研(生命)▽中川泰宏研(情報)▽久保裕史研(PM)▽関研一研(同)▽加藤和彦研(同)の8研究室が、空き公共施設活用や集落創造のプロジェクトについて発表した。

雨天だったが、本学、千葉大、聖徳大、南房総市民、近隣市町村民など200人以上が参加し、県南一の規模となった。報告会では、南房総市長のあいさつ後、各大学代表がそれぞれの特色を生かした取り組み概要を説明した。

8研究室が成果を発表

南房総市「活力創造」報告会

COCC+は次年度が最終年度で、市は本学研究室の活動成果に期待している。各研究室が報告したプロジェクトは次の通り。①空き公共施設活用プロジェクト②新規水耕栽培方式による農地利用プロジェクト③地域資源発掘(カレンデュラ)プロジェクト④地域課題解決アプリ・システム開発プロジェクト⑤持続可能な集落創造プロジェクト⑥海洋資源活用プロジェクト⑦地域創生活動の連携促進プロジェクト⑧若者と市民の交流創出プロジェクト

大井で初の どんど焼き

加藤研・鎌田研と地区民

南房総市大井地区で初めての「どんど焼き」が2月3日、プロジェクトマネジメント学科・加藤和彦教授の研究室と都市環境工学科・鎌田元弘教授の研究室の学生計14人と地区民たちの手で行われ、無病息災を祈って正



火入れ直後のどんど焼き

月飾りが燃やされた。両研究室が大井で展開する産学協働地域活力創造推進プロジェクトの一環。若手の住民と催しを探る中で発案され、学生が企画から参加した。1月13日に地区林から孟宗竹を切り出し、茂沢



一緒に餅つき

バス停近くの遊休地に地区民たちとともに高さ約8mの竹の櫓を完成させた。2月3日の当日は、午後1時から御払いが、3時から餅つきが行なわれた。子どもたちも材料運びを手伝って、つき役のスターで発表した。過疎化に悩む市民からは「学生の新鮮なアイデアとパワーに勇気づけられました」などの感想が寄せられた。

学生たちと交流。熱々の餅がつき上がる一方、地区民たちは櫓に付ける正月飾りやお札を持ち寄った。薄暗くなった夕方5時には地元消防団や大井区長も到着。約70人が見守る中、地域の年男・年女ら5人が「どんど焼き」の竹櫓に火を入ると、正月飾りや古札がくぐられた竹櫓は勢いよく燃え上がり、子どもも大人も無病息災を願った。

COCC+は次年度が最終年度で、市は本学研究室の活動成果に期待している。各研究室が報告したプロジェクトは次の通り。①空き公共施設活用プロジェクト②新規水耕栽培方式による農地利用プロジェクト③地域資源発掘(カレンデュラ)プロジェクト④地域課題解決アプリ・システム開発プロジェクト⑤持続可能な集落創造プロジェクト⑥海洋資源活用プロジェクト⑦地域創生活動の連携促進プロジェクト⑧若者と市民の交流創出プロジェクト

新任紹介

西岡 護 (敬称略) (総務部人事課 事務職員) まだまだ緊張の連続ですが、周りの方に教えていただきながら業務をいち早く覚えられようように頑張りたいと思います。よろしくお願ひします！趣味は、野球やサッカーなどスポーツ観戦。



活躍する 校友

日精樹脂工業(株)テクニカルセンター所長 佐藤 琢磨さん (56歳) (昭和60年、機械工学科卒)

17年、70周年を迎えた。立志中の人である。佐藤さんは坂城町の隣の田市生まれ。自転車をはらし、組み立て直すといったモノイジリが好きなのと、「英語が苦手」ゆえ理系コースをチョイス。県立高を出て、本学へ。小4から中高と部活で続けた縁で剣道部(体育会)に入った。

講義、道場、バイト... 思いのほか忙しく、アパートから原付きバイクで10分のキャンパスへ毎日通ったという。体育会では執行部に加わり、有名なフリーサーと同姓同名である。「ロンドンの免税店レジで店員に『安全運転を』と声をかけられました」と笑う。射出成形機では国内最大手メーカー、日精樹脂工業(本社・長野県坂城町)で技術と営業をつなぐテクニカルセンターの責任者(所長)になって5年。「今後も機械の需要は広がっていくでしょう」と意欲的だ。

「これは面白い」 終戦翌年の1946年。中国・旧満州から妻子とともに引き揚げた故・青木固氏は焼け野原の東京で飛行機の風防ガラス(アクリル樹脂)の破片を手にし直感した。熱するとクニャクニャ、でも冷やせば硬い。何か作れるのではないかと、と。大学へ進む夢破れ、満州で工員として働きながら技術関係の本を多読した。その知識をベースに、ふるさと坂城町へ戻り、ニワトリ小屋を改造した工場で合成樹脂の加工や加工機械の開発に没頭。タバコケース、婦人用洋傘の握りなどを皮切りに改良を重ね、創業した日精樹脂工業は20

変幻自在のプラと

「生活英語が大変でした」



入社後の所属は一貫して「営業的技術畑」(現・システム技術課)と言ってよいだろう。それでも長男はベルギーで無事出産。やはり、たくましいのだらう。文房具、注射器、おもちゃ、車の部品、ゴルフボール、スプーン... 北陸新幹線上田駅から車で約20分、本社の一角にある資料館には、同社の成形機から生まれた製品が並ぶ。「電気自動車は軽量化し、樹脂のパーツは増えていくでしょう」と佐藤さん。2018年に50周年を迎えた射出成形技術士専門教育機関「日精スクール」も預かっている。新入社員に語る言葉がある。「守破離」(しゅはり)。 「大学剣道部の同輩の高校時代の部訓だそうです」と前置きして説明してくれた。「教えを守り、しかし、他流試合でそれを超え(破り)、師から離れていく(自立)。技術者の立ち方も同じです」。春夏秋冬の高校野球大会を球場で見物しながら気分転換をはかり、仕事にまい進する日々を過ごす。

献血呼びかけなどしている。1年目は詰め襟の学ランスタイルだった。「でも、勉強した感じはないんです。一歩下がるといふより、一歩前、できたら一番前でも見、触れてみたがるタイプです」 好奇心おう盛である。4年生の1984(昭和59)年夏には中国のハルビン工大などを訪れている。2週間の初の海外旅行。本学はいま18カ国・地域の38大学と大学間交流協定を結び、研究者

や学生が往来しているが、その一環だ。「中国は大きい。いい体験でした」。しかも出発前、「就職先を決めてから行くぞ」と大学スタッフに気合をかけられ、故郷の日精樹脂工業を訪問。内定をもらい、リラックスしての旅だった。「もともと長野で働く親に言っていたので。車のギアの振動をテーマに卒業研究をまとめ、戻った。

「守破離」(しゅはり)。 「大学剣道部の同輩の高校時代の部訓だそうです」と前置きして説明してくれた。「教えを守り、しかし、他流試合でそれを超え(破り)、師から離れていく(自立)。技術者の立ち方も同じです」。春夏秋冬の高校野球大会を球場で見物しながら気分転換をはかり、仕事にまい進する日々を過ごす。

定年退職の皆さん

3月に定年を迎えられた教職員の皆さんを紹介いたします。思い出や、学生たちへの温かい励ましのお言葉を残してくださいませ。(敬称略)

富井 規雄 (情報工学科・教授)



Something of everything. Everything of something.

佐久間 佐知子 (新習志野教務課・担当課長)



皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

樋口 勉 (新習志野施設課・技術員)



お世話になりました。

教員 (6人)

佐々木 洋士 (機械サイエンス学科教授)



大変お世話になりました。ありがとうございます。千葉工業大学の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

片山 律 (建築都市環境学科・教授)



千葉工業大学の発展を願っております。

西郷 敏子 (津田沼教務課・係長)



皆さま、お世話になりました。心から感謝申し上げます。"日日はチャレンジ"

齋藤 寛英 (総務課警備員)



お世話になりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

小原 和博 (電気電子情報工学科教授)



長い間ありがとうございました。おかげさまで充実した毎日を送ることができました。皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。

宮崎 収兄 (情報工学科教授)



皆様が元気に活躍されることを願っています。

長嶋 孝三 (大学事務局・事務職員)



ありがとう

村上 泰明 (新習志野学生課・警備員)



楽しく勤務させていただき、ありがとうございました。

職員 (9人)

室 英夫 (電気電子情報工学科教授)



皆様のおかげで、研究に教育に充実した毎日をおくることができました。どうもありがとうございました。

氏原 憲二 (監査室 部長)



大変お世話になり有難うございました。皆様の益々のご活躍を祈念しております。

猪瀬 徹 (施設課 技術員)



3年間、楽しく仕事をさせていただき、ありがとうございました。

豊後 豊 (新習志野学生課・警備員)



「おかげさんで」皆様、ありがとうございました。

同窓会



3月はあっといふ間に過ぎていきます。卒業・修了していく学生と落ち着いて話ができる貴重で名残りの多い月です。

先日、私の研究室のOBが遠方に転職するため壮行会を行いました。そこで今後気軽に会いづらいことを本人に伝えたとこ

ろ、「色々な所に知人がいるのは良いことです。よ、最近SNSで交流できますし」と言われ、それもさうだなと感じた次第です。

四季雑感



2月後半になると、学生寮では在寮期間を終える寮生が、退寮のための引っ越しをします。その様子を見ていると作業方法は様々です。引っ越し業者に頼む方法、ダンボールに分けて宅配便で送る方法、友人と割り勘でレンタカーを借りる方

法、バッグに入れた荷物を持って何度も新居への往復をする方法など、いろいろの方法があり、学生の個性が出ています。そのような様子を見ながら、彼らの在寮にあたってきこを思い出したりもします。

寮は宿泊するための施設であるだけではありません。寮友会の一員として、協力して寮祭や運動会といった各種の行事を計画したり、安全、快適を求めて、自分たちで寮

編集だより



私は昔からモノづくりが好きだ。小さい頃から料理をしたり、編み物をしたり……「作ること」は知らず知らずのうちにやっていると近頃行動で誰しもがそうだと思う。自分のアイデアをカタチにするのは楽しいし、それで周りの人が幸せに

なる。さらには達成感や充実感がある。仕事でも制限はあるものの入試広報課では一緒に働く仲間がいてこそ成功に導ける業務が多く、実は、アイデアを形にするのが1年を過ぎるという幸せな環境なのでは？と気づく。

る、「時代なのでしょう。同窓会はその年代、または今まで交流が無かった同期を結びつけ、親交を深めて頂く場です。SNSが普及した今だからこそ、この基盤の価値が増してくと感じました。3月に大学を巣立って行く皆さん、是非同窓会に参加し、生涯の仲間をつくらせて下さい。

……やっぱり寂しいです。お待ちしております。プロジェクトマネジメント学科 田隈 広紀

生活運営して行くことができます。また、勉強のことはもちろん、悩みや将来のことなど、一緒に生活しているからこそできる本音の語り合いなどもできます。

4月になると、新入生や留学生を迎えます。寮友会でも迎え入れの準備をしています。活き活きとした学生生活、寮生活を送ってもらえたらと思います。

学生センター 学生寮 大平 一哉

した。平賀さん(旧姓)の頃からの『編集だより』が楽しみでした。毎号、バタバタと締切前にもがき、多くの人の手を借りて紙面を仕上げて行く。そんなこともきくと読み手に届いているのだらうと、温かく優しい文章から読み取れた。ありがとうございます。感謝の気持ちを忘れずに、今後も精進します。入試広報課 大橋 慶子